

活動報告書

報告者氏名: 中本 和幸

所属: 広島県立広島中央特別支援学校

記録日: 平成27年 2月25日

【対象児の情報】

・学年 高等部普通科第2学年

・障害名 視覚障害

・障害と困難の内容

<遠距離視力> 右: 0. 2 左: 手動弁 両: 0. 2

<近距離視力> 右: 0. 2 左: 手動弁 両: 0. 15

<最大視認力> 右: 0. 3 視距離 8 cm

<視機能の障害>

視野狭窄 右: 鼻側 1 / 4 は見えない。左: 左側の下だけ見える。

知的障害はなく、高等学校に準ずる教育課程を履修している。



【活動目的】

・当初のねらい

・ 学習内容の基本的な事項を理解し、自ら考え学ぶ姿勢を身に付ける。

・ ICT機器の操作に慣れ、活用する場を広げる。

・実施期間 平成26年5月～平成27年2月

・実施者 中本和幸

・実施者と対象児の関係 世界史授業担当

【活動内容と対象児の変化】

・対象児の事前の状況

○社会科は苦手意識があり、国の位置関係について十分理解できていない所がある。

○地図等込み入った資料については読み取りに時間がかかる。

○知的障害はなく、高等学校に準ずる教育課程を履修している。

○家庭には家族共用のパソコンがあり、また中学校の時にはパソコン部に所属し、平成25年度は情報処理検定2級を取得するなど、情報機器についての興味・関心は高い。

○現在高等部普通科第2学年に在籍しており、卒業後は大学若しくは専門学校に進学希望である。

・活動の具体的内容

週3時間、世界史の授業でiPadを活用している。またiPadを固定する器具としてアームスタンド、文字入力装置としてキーボードを使用することもある。

○視覚補助具としての活用

アクセシビリティの視覚サポート機能について、どの機能が有効か本人と確認し活用している。

・「拡大機能」: 文字や資料を読み取る時に活用している。

・「音声入力機能」: ネット検索の際に活用している。

・「選択項目の読み上げ機能」: ネット検索で比較的長い文章を読む時に活用している。また目が疲れている時には本文テキストを読む際にも活用することがある。

「カメラ」「明るく大きく」: レンズでは見るのが難しい資料や地図を見る時に活用している。



○情報機器としての活用

校内の情報機器や視聴覚室は共有のため、必要な時に使用できるとは限らないし、教室移動にも時間がかかることから情報機器として活用している。

「Safari」: Web 検索や Web ページ上の動画を視聴する時に活用している。

「Google Maps」, 「i 地球儀」: 世界の国や都市などの位置を確認する時に活用している。

「Google earth」「world heritage」: 世界の地形や遺跡の様子を確認する時に活用している。



○学習機器としての活用

「社会科に苦手意識がある。国の位置関係が理解できていない。」「学習内容を整理し、まとめることが不得意である。」「学習プリント等の整理が苦手で、学習準備に時間がかかる。」

「World Map HD」: 世界の国の位置について復習する時に活用している。

「Keynote」「Microsoft PowerPoint」: 調べ学習の発表の時に活用している。

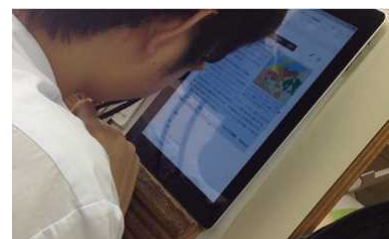


・対象児の事後の変化

○視覚補助具としての活用

本読みでは1分間に196文字で、普段生徒が本を読む時に活用しているレンズを使用した場合は206文字であった。これは文字を拡大しているために画面の中に全体の文がおさまらず、スクロールさせながら読まなければならないことで、操作に手間取ったと考えられる。今後、操作に慣れることによってレンズ使用時の速度に追いつくと思われるが、生徒から「レンズを使わなくていいので読みやすいが、画面が変わりながら読むと目が疲れるし、早く読もうとして頭に入らない。」との訴えがあり、基本はレンズを活用している。

教科書に掲載されている地図や写真の中には大きさが小さいものや文字情報が細かく込み入っているものなどレンズでは読み取るのに時間がかかるものがある。「カメラ」や「明るく大きく」のアプリを活用して拡大することで、細かな部分も容易に見ることができるようになった。また検索サイトで単語を入力する時に音声入力機能を活用したり、Web ページを読む時に読み上げ機能を活用したりすることで検索時間の短縮や目の負担の軽減を図ることができた。



○情報機器としての活用

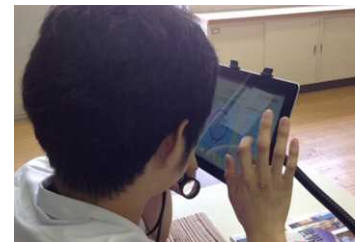
「Safari」を活用することで、授業で分からない単語や興味をもった出来事について、理解を深めることができた。またモンゴル帝国やイスラーム教の成立等について高校講座世界史の動画を視聴することにより、具体的にイメージをもちながら学習を進めることができた。

世界の国や都市、遺跡の場所を確認することは、歴史事象の原因や影響、歴史事象間の関係について考察するのに不可欠なことである。地図帳では都市を見つけるのに2分～3分かかるうえ、位置関係を確認するには別の地図が必要だったが、「Google map」、「i 地球儀」を活用することで場所と位置関係を同時に行うことができ、確認作業の時間を短縮することができた。また「Google earth」「World heritage」を活用することで万里の長城やフィレンツェの都市など映像で確認することができ、興味深く学習することができた。



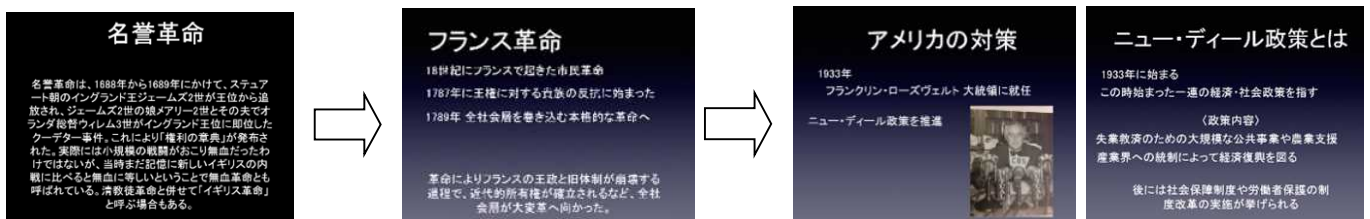
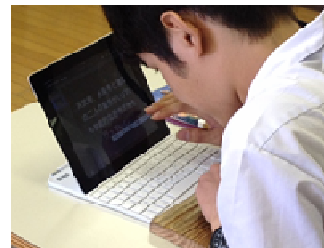
○学習機器としての活用

「World Map HD」の活用では、各地域の国の位置問題について8割以上正答なら合格として学習を進めた。東アジアの国々の位置問題について5回目で22問中19問正答しクリアした。西アジアの国からは家庭で学習するようにして、週に1回程度のペースでテストを実施した。西アジアの地域問題では、1回目は25問中18問だったが、2回目に20問正解でクリアした。以降については、学習習慣の定着を図るために自主学習に切り替えた。



自分で調べたことや授業で学習した内容をまとめて、

「Keynote」や「Microsoft PowerPoint」で発表した。最初は教科書やWebページに書かれていることをそのまま書き写した状態であるが、要点を整理してまとめたり、画像を取り入れたりして分かりやすいように工夫するようになってきている。



【報告者の気づきとエビデンス】

・主観的気づき

- (1) iPad を活用することにより、学習への意欲が向上し、自ら考え学ぶ姿勢が身に付いてきているのではないか。
- (2) iPad の操作に慣れることにより、活用する場が広がるのではないか。

・エビデンス

- (1) に関して

・授業でわからない語句については質問したり、調べる内容も指示されたものだったりが、ヴェルサイユ宮殿やフィレンツェの街並みなど、「Google earth」でその土地の様子を確認したり、「Safari」で人物や出来事を調べたりして、



授業で分からない語句や興味・関心をもったことについて、自分で調べる場面が多く見られるようになり、学習に主体的に取り組もうとする意欲を感じた。

・英語の学習に活用するために「ぎゅっと MaG」を取り入れたり、「Smart news」を活用して現代社会の動向について調べたりするなど、自分で必要だと考えたアプリをダウンロードして学習に役立てようとする姿が見られたことから、自ら考え学ぶ姿勢が身に付いてきている。

(2) に関して

・文章や資料の読み取りには、レンズか iPad を自分で見えやすい方法を選択して使っている。iPad を活用する場合には、長い文章であれば読み上げ機能を活用して目の負担を軽減させたり、写真が小さい時にはカメラやアプリを使って自分が見えやすいように設定したりして、資料の種類（文章や地図、写真など）や大きさに応じて自分でアプリやアクセシビリティ機能を選んで使用していることから、生活の様々な場面で視覚補助具として有効に活用できると考える。

・家庭学習等で家庭でも活用するようになり、タブレット端末の有効性について、家庭でも肯定的な評価を得ている。

・その他エピソード(画像などを含めて)

○学習ノートとしての活用

・視覚障害を有する生徒にとって学習教材を準備したり、教科書やノートで学習したいページを見付けたりする活動は時間がかかり、学習時間が十分に確保できない原因になっているのではないかと考えた。



そこで「Evernote」に授業で活用した学習プリントや資料を取り込んで教材の一元化を図ることで、学習するまでの時間や学習したい箇所を探し出す時間を短縮させ、効率よく学習できるのではないかと考え、取組を始めたところである。



またデータの取り込み先については共有のフォルダを作成して、そこに入れることによって授業で使用する資料をあらかじめ確認できるようにしたり、取り入れたノートを教師が確認して助言・指導できるようにしたりした。現在の状況として、割合大きい單元ごとにまとめて取り込み、おおまかなファイル名にしたために、出来事などのデータ検索ができないことが分かった。小單元ごとに取り込んだり、ファイル名の中に具体的な歴史用語を入れたりすることで検索時間の短縮を図り、効率よく学習できるように今後取り組んでいく。